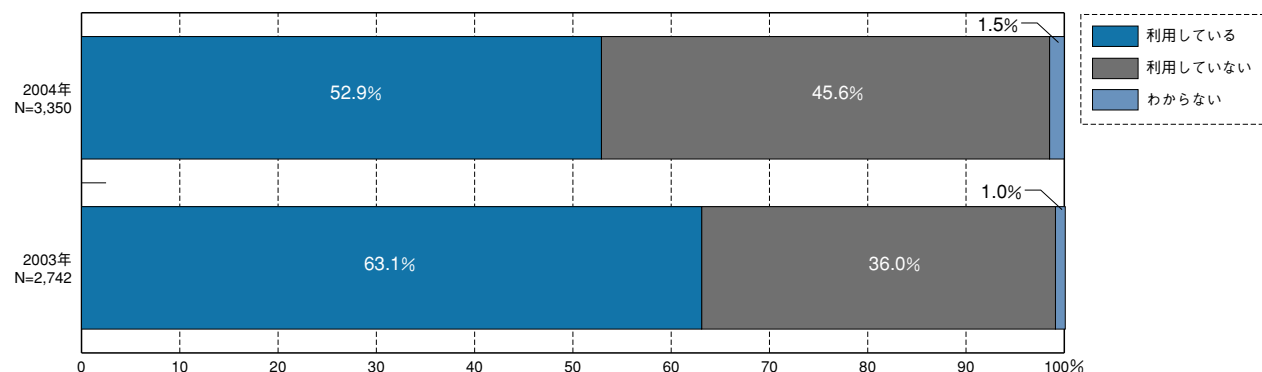


インターネットバンキング

サービスと安全性を評価、過半数がインターネットバンキングを利用

資料2-6-66 インターネットバンキングの利用有無（2003年-2004年）

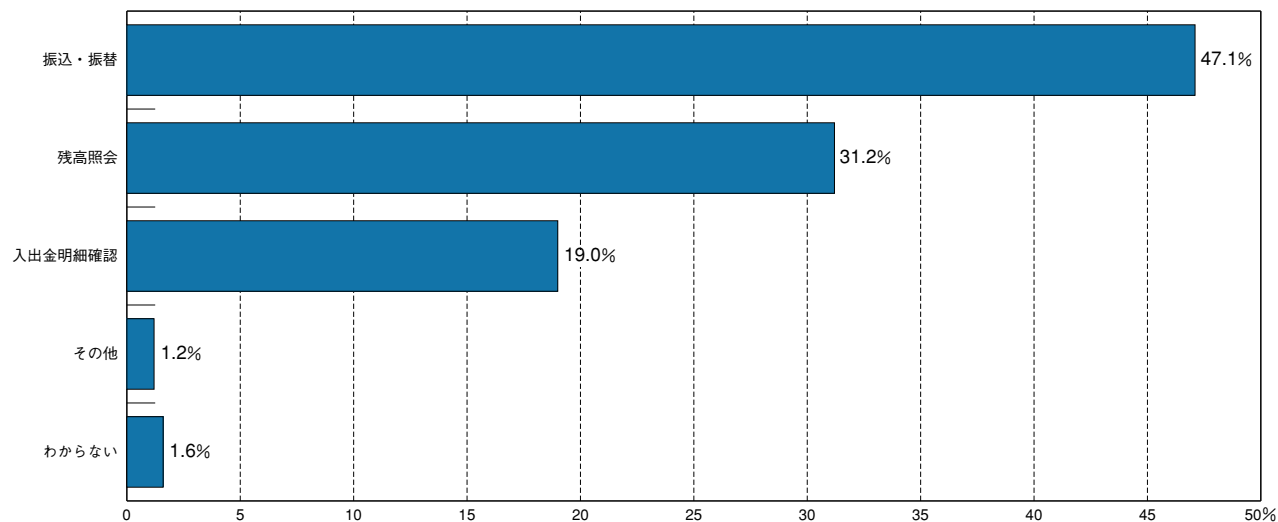


©Access Media/impress,2004

インターネットバンキングの利用は、52.9%と過半数になっている。インターネット銀行の特徴として、高金利、格安手数料、24時間利用可能、PCだけでなくモバイルバンキングも可能などサービスの充実とともに最も懸念されるセキュリティ・安全性を重視している銀行が増えてきた点がある。その利点を支持しているのは、性別では男性、年代では30代～50代の年代層である。

振込・振替の利用度が47.1%でトップ、銀行のサービス内容を支持

資料2-6-67 よく使うバンキングサービス N = 1,773



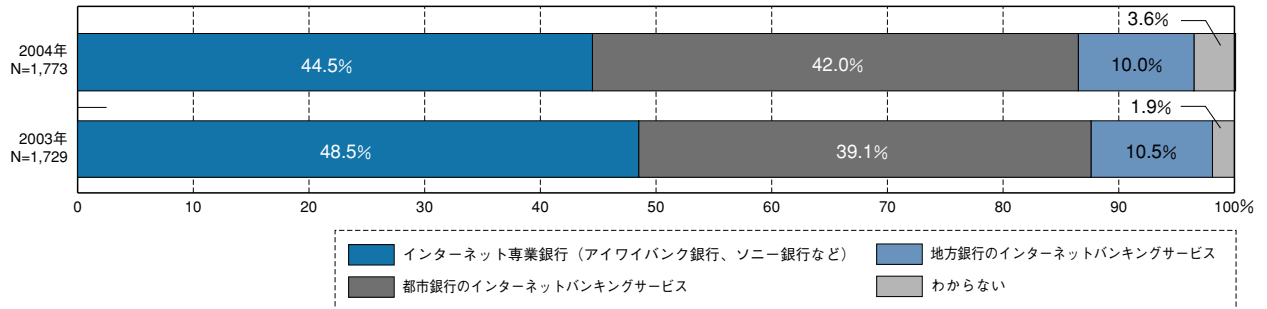
©Access Media/impress,2004

1,773サンプルのインターネットバンキング利用者の47.1%が、「振込・振替」をよく使うバンキングサービスに挙げています。インターネットバンキングの利点として、ATMや窓口には必ずどこからでも振込・振替が可能であることをうたっているが、実際に利用されていることから、サービス内容が支持されているといえる。

インターネットバンキング

専用銀行が44.5%で変わらず1位、都市部の銀行も僅差で健闘

資料2-6-68 口座を開設している銀行の種類別（2003年-2004年）

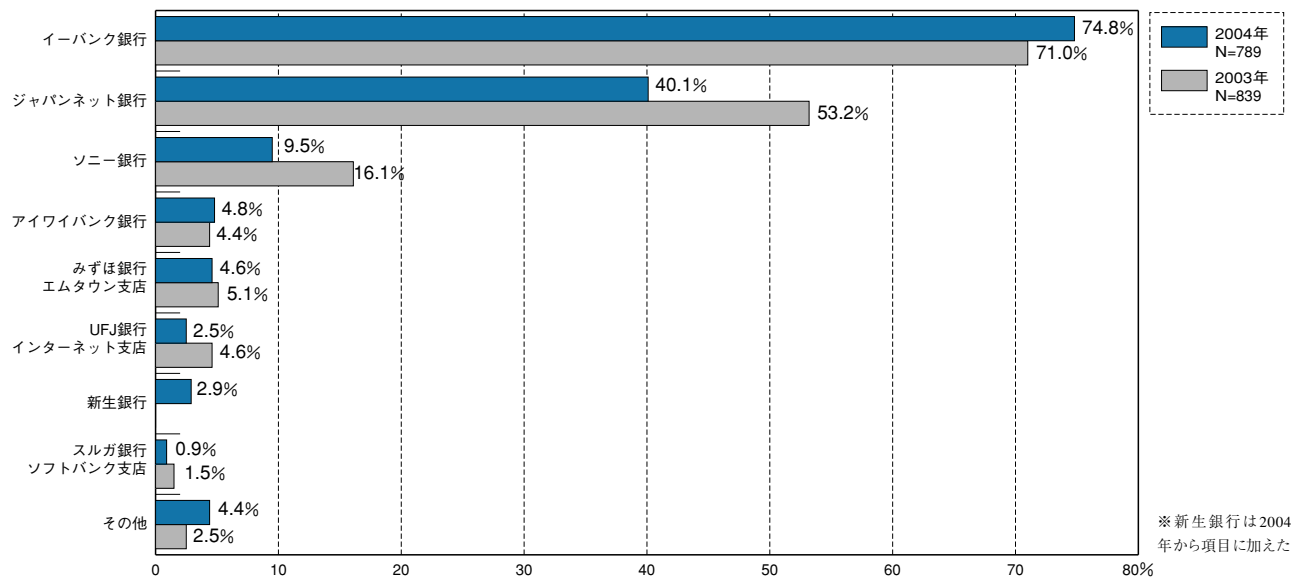


©Access Media/impress,2004

インターネットバンキング利用者1,773サンプルの開設銀行の種類を前年比と比較してみると、「インターネット専門銀行」は44.5%で相変わらず高いが、「都市銀行」も42.0%で健闘している。特に都市銀行に関しては、すでに銀行口座を所有している利用者は、ウェブ上での簡単な手続きで口座を開設することが可能なため、その利用率を伸ばしていると推測される。

利用者は利便性とサービス内容の充実に依存傾向

資料2-6-69 利用しているインターネット専門銀行（2003年-2004年）



※新生銀行は2004年から項目に加えた

©Access Media/impress,2004

インターネット専門銀行利用者789サンプルに、利用銀行を聞いたところ、「イーバンク銀行」が最も高く、「ジャパンネット銀行」がそれに続く。インターネット専門銀行の利用者数増加は、ポイントサービスやオークションなどで扱われるサイトなどにも影響を受けるが、基本的には利便性と金利や手数料などの充実したサービス内容に依存するものと推測される。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp